

令和4年度入学試験

## 一般学科試験

桐朋学園大学音楽学部

Ⅰ～Ⅱの各設問すべてに取り組み、それぞれの答えを解答用紙の所定の箇所に書きなさい。

### 注意事項

1. 問題用紙に落丁などある場合は、挙手をして申し出て下さい。
2. 終了時刻まで退出はできません。ただし、気分が悪くなったなどの場合は、挙手をして申し出て下さい。

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

- 1 ここで、人間としての選択を支える知の姿を考えてみたい。具体的には、<sup>(1)</sup> アリストテレスが区別した二つの知的能力、すなわち、科学的探究および学問的論証能力である「ソフィア」と、行為の選択を行う思慮深さ「フロネーシス」の両者を考察しながら、両者の<sup>(1)</sup>協働を実現すべき現代にふさわしい新たな思慮深さ、いわば深慮遠謀する力としての「フロネーシス」について考えてみたいのである。
- 2 「ソフィア」も「フロネーシス」もギリシア語である。これを正確に日本語に対応させようとするととても難しい。どちらも人間の知的能力を表すことばであるが、伝統的に高度な知的能力を表すのは、「ソフィア」のほうである。
- 3 ソクラテスから哲学を引き継いだプラトンは、価値の根源ともいべきもの、たとえば「善とは何か」という問いが向けられているものを「善の<sup>(2)</sup>キユウキョクの姿」という趣旨で「姿」を表す「イデア」ということばを使って「善のイデア」と呼び、善のイデアを認識する能力を「ソフィア」と呼んだ。ソフィアをもつものが「ソフォス(賢い人)」と呼ばれるのである。
- 4 プラトンの考えでは、価値の認識も数学的真理の認識も同じソフィアの対象であるから、アリストテレスのように二つの知的能力を区別することはなかった。というのは、プラトンは、ソクラテスから受け継いだ「悪と知りながら悪をなすものはいない。悪をなすとすれば、それは善に対する無知に<sup>(3)</sup>由来するのだ。大切なのは、善の知を人の心に呼び覚ますことだ」という知徳合一の考えを教育思想の基礎にしていたからである。
- 5 しかし、アリストテレスは、「悪と知りながら、悪をしてしまう人間はいる」という立場に立っていた。その上、かれは自然の客観的な認識を獲得する知的能力と人間の行為の選択にかかわる知的能力は異なっているという立場をとった。そのために、自然の認識にかかわる知的能力を「ソフィア」と呼び、人間の選択にかかわる能力を「フロネーシス」と呼んだのである。
- 6 では、この二つの知はどのように日本語に訳したらよいだろうか。プラトンの場合には、「ソフィア」を「知恵」と訳してもそれほど<sup>(4)</sup>違和感はないように思われるが、アリストテレスの「ソフィア」は、「知恵」とはいいいにくい。【「ソフィア」】、彼は、このことばを「学問的な認識能力」と考えていたからである。アリストテレスは、学問的論証の起点になる原理に対する直観(「ヌース」という)と原理から導いて結論を得る論証の能力(「エピステーメー」といわれる)を区別した。エピステーメーと言う名詞のもとになる動詞は、「エピスタマイ」で、これは「知る」という意味である。プラトンにとってもエピステーメーは、ものごとの真理を知るといって人間の能力を考える上で不可欠のことばであったが、原理と推論の規則にもとづいて論証する能力という限定された意味には用いていない。他方、アリストテレスは、

ヌースとエピステーメーによって人間の知的活動は行われる、とくに自然界の<sup>⑤</sup>ヒツゼンの真理は認識されると考え、この二つを合わせて「ソフィア」と呼んだのである。【一】、ソフィアは「学問的論証能力」という意味であった。

7 アリストテレスは、人間を「社会的な動物」ととらえた。フロネーシスは、行為にかかわる思慮深さである。アリストテレスは、これを倫理的能力としている。人間は、個では生きることができず、社会的な存在として生を全うしなければならないからである。フロネーシスは、社会生活を営む知的能力でもあり、国家を運営するための政治的能力でもあった。したがって、行為を選択する存在が人間であるならば、誰もが思慮深さとしての「フロネーシス」をもっている。しかし、人間が社会的な動物であるという点を考慮するならば、高度なフロネーシスは個々の行為の最適性を認識するとともに、行為の構造や行為の目的と手段、行為をめぐるさまざまな課題、社会的な動物としての人間の本质について考察するであろう。人間の個人の<sup>⑥</sup>性向としての人柄や集団としての社会構造、政治システムなど、こうした領域にあるのは、純粹で厳密な認識ではなく、すぐれた行為を行い、よりよい社会を実現するための選択である。そのための知的な営みは、自然についての真理を与える理論ではなく、よりよい選択のための営みであるから、アリストテレスは、これについて過度の厳密さをもとめるべきではないと語っている。

8 すぐれた科学者のもつ知的能力とすぐれた政治家のもつ知的能力は異なる。アリストテレスのことばでいえば、前者はソフィアであり、後者がフロネーシスである。現代社会では、ソフィアをもつ人とフロネーシスをもつ人とは別である。前者が理系の知識であり、後者が人文社会系の知識であるならば、理工系教育と人文社会系教育とは別々に行われているので、すぐれた科学者であっても「思慮深い人」であるとはかぎらない。<sup>②</sup>現代の教育システムは、これを容認している。

9 が、アリストテレスは、ソフィアとフロネーシスは、どちらも一人の人間がそなえるべき知的能力と考えている。重要な点は、二つの能力は独立の能力だということである。「一」。たとえば、数学や自然の研究については、若くして大変な<sup>⑦</sup>ギョウセキを上げる者もいるが、若くして思慮深い者はいないからである。さまざまな行為の選択や社会生活の経験がフロネーシスの獲得には不可欠である。

10 現代の大学で推進される応用研究では、「役に立つ」研究、すなわち、世の中を便利にし、<sup>⑧</sup>カッセイカして、国際競争に勝利するような研究が高く評価されていて、高額な研究費が支出される。目先の目的達成のために研究の視野を狭めなければならない若い研究者も多い。一九六〇年代や七〇年代にゆったりとした研究生生活を送ってすぐれた成果を上げた研究者で、ノーベル賞を受賞するような人は、基礎研究の重要性を唱え、若い人たちが目先の成果にとらわれずに研究生生活を送れるようにすることが大切だと<sup>⑨</sup>力説する。「自由な研究環境が重要だ」という。

11 ただ、自然科学領域ですぐれた知的能力をもつ者であっても、社会生活のなかで、あるいは政治的な世界のなかで、すぐれた選択をする者であるとは限らない。むしろ、そうでない例もしばしば見られる。

12

12 科学者が発見あるいは発明したことをどう使うかは、科学者の責任ではなく、社会の責任であるという発言を耳にすることもある。わたしが運営した「生命の科学と生命倫理」という複数の教員が行うオムニバス形式の講義のなかで、一人の教授が「若者たちは、自由に研究を行い、それに喜びを感じればよい。研究にとっては、倫理は手かせ、足かせだ。研究の成果をどのように使うかは、倫理の先生と社会に任せればよい」と語ったことがあった。ソフィアとフロネーシスということばで言い換えれば、「☐」。しかし、わたしの考えでは、フロネーシスを欠いた科学研究では、人類の直面する危機を回避することはできない。ソフィアの活動に従事する者には、フロネーシスは必要ない、あるいは、研究の手かせ足かせになるというような認識をもっていること、そのこと自体が、現代の科学研究が内包する最大のリスクのひとつである。このリスクを回避するためには、ソフィアとフロネーシスの関係を現代の文脈で明確にすることが重要である。

13

13 科学的探究では、フロネーシスは必要なく、ソフィアさえあればいいと考える人がいる一方、すぐれたソフィアをもっていればフロネーシスももっていると考える人が多いこともまた事実である。すぐれた研究成果を上げた人物が研究組織のリーダーとしてふさわしいという考えはだれもが抱く。専門だけを重視する「とんがった」領域で成果を上げて評価された学者が大学運営の舵取りになる。現在行われている大学改革で文部科学省は、「リーダーシップの強化」ということを前面に打ち出している。学長に人事権や財政権、大学のスペースの管理権などの権力を付与することが重要だと考え、そのような意味での「リーダーシップ」を与える方向に突き進んでいる。しかし、わたしの考えでは、リーダーシップというのは、「リーダーがもつべき能力や資質」であり、「思慮深さ」の領域に深くかかわっている。【☐】、リーダーシップは、リーダーの地位に与えられた権限や権力のことではない。このことは、リーダーの資質を欠いた者がそうした権限や権力を☐ドクセンした状態を想像してみれば、簡単に理解できる。

「桑子敏雄『何のための「教養」か』（ちくまプリマー新書、2019年）より」

問一 波線部①～⑩のカタカナは漢字に、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 空欄【 一 】～【 三 】に入れるのに適当な接続詞を、選択肢ア～オの中からそれぞれ選びなさい（重複不可）。

- ア おまけに
- イ ましてや
- ウ というのは
- エ あるいは
- オ つまり

問三 傍線部（1）「アリストテレスが区別した二つの知的能力」とあるが、次に挙げた本文に述べられる能力（A）～（J）は、アリストテレスが区分した「ソフィア」と「フロネーシス」のいずれに属するか。「ソフィア」の場合にはアを、「フロネーシス」の場合にはイを、いずれにも属さない場合にはウを解答用紙に記入しなさい。

- （A） 国家を運営するための政治的能力
- （B） 人間の行為の選択にかかわる知的能力
- （C） 価値を認識する能力
- （D） 倫理的能力
- （E） 数学的真理を認識する能力
- （F） 善のアイデアを認識する能力
- （G） 学問的論証能力
- （H） 自然の客観的な認識を獲得する能力
- （I） 社会生活を営む知的能力
- （J） 科学的探究能力

問四 空欄「 一 .」・「 二 .」に入る本文として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

・空欄「 一 .」

ア 本来的にはフロネーシスとソフィアの間には交換性を見出すことはできないのだが、経験に関わるフロネーシスだけは個人の生き方によって獲得できるのである

イ ソフィアがそなわっていればフロネーシスもそなわることとなり、両者の相互の関連性を恣意的な観点から無視することはできないの

である

ウ フロネーシスがそなわっていればソフィアはそなわることとなるのだが、一方でソフィアがそなわっているだけではフロネーシスをそなえることはできないのである

エ ソフィアがそなわっていてもフロネーシスがそなわるとはかぎらず、フロネーシスがそなわっていてもソフィアがそなわっているとはかぎらないのである

・空欄「□」

ア 研究者にはソフィアもフロネーシスもまったく必要ないという主張である

イ 研究者にはフロネーシスだけあればよく、ソフィアは必要ないという主張である

ウ 研究者にはソフィアだけあればよく、フロネーシスは必要ないという主張である

エ 研究者の喜びはソフィアにあり、フロネーシスに見出すのは邪道という主張である

問五 傍線部(2)「現代の教育システムは、これを容認している」とあるが、それはどういうことか説明しなさい。

問六 アリストテレスの「ソフィア」と「フロネーシス」の区分を音楽の分野に応用すると、(a)どのようなもの(こと)に対応させられるとあなたは考えますか。その点を明確にした上で、(b)著者の述べる「ソフィア」と「フロネーシス」を包括することの大切さについてどう思うか、あなたの意見を六〇〜八〇字内でまとめなさい。

問七 選択肢ア〜オは、この文章の内容に関する説明である。本文の説明として適当なものには○を、適当でないものには×を書きなさい。

ア 科学者が発見あるいは発明したことをどう使うかは、科学者の責任ではなく、社会の責任であるという考え方に対して批判的な著者は、フロネーシスを欠いた科学研究では、人類の直面する危機を回避することはできないとし、より世の中の役に立つ研究を推進していく必要性を述べている。

イ 「悪と知りながら悪をなすものはいない」と考え、価値の認識も数学的真理の認識も同じ概念の枠組で捉えたアリストテレスに対して、プラトンは「悪と知りながら、悪をしてしまう人間はある」と考えていたため、客観的な認識を獲得する知的能力と人間の行為の選択にかかわる知的能力を区分して考えた。

ウ 専門重視の「とんがった」領域で成果を上げて評価を得ていくためには、その過程で手かせ、足かせになるようないくつかの領域を犠牲にせざるを得ないのであるが、そうした苦境の中で結果を出して名声を手にした人材は、自ずとリーダーとして必要な資質や能力を経験的に身につけている場合が多い。

エ 現代の教育制度においては、アリストテレスの区分した「ソフィア」と「フロネーシス」の能力が別々に修められているが、アリストテレス同様に個人が両方の能力を兼ね備えていくことが大切だと考える著者は、両者を包含した能力として「深慮遠謀する力としてのフロネーシス」を提案し、その重要性について考察している。

オ アリストテレスの言葉で区分すれば、すぐれた科学者のもつ知的能力を「ソフィア」として、すぐれた政治家のもつ知的能力を「フロネーシス」として分けることができ、また現代の教育にそれを当てはめるならば、「ソフィア」は理工系教育に、「フロネーシス」は人文社会系教育に当たると著者は述べている。

一般学科試験

解答用紙

I

専攻

受付番号

氏名

問七	b				問六	問五	問四	問三		問二	問一		
ア					a		i	(F)	(A)	I	⑥	①	
イ							ii	(G)	(B)	II	⑦	②	
ウ								(H)	(C)	III	⑧	③	
エ								(I)	(D)		⑨	④	
オ								(J)	(E)		⑩	⑤	

--



**Ⅱ**

次の英語課題の設問に答えなさい。

\* 答えは解答用紙の指定の場所に書くこと

**問 1. 次の各文を日本語に訳しなさい。**

1. Anything is possible as long as you have the passion.
2. There is always a chance to make a difference in the world.
3. Unhappiness tells us what happiness is.
4. Knowing just a little may be more dangerous than knowing nothing.
5. If you can't explain it to a six-year-old boy, you don't understand it yourself.

**問 2. 次の各文を英語にしなさい。**

1. 私は何が正しいか、何が間違いかを知りたい。
2. 最後まで考えることが大事である。
3. たくさんの友達を持つことは良いことだ。しかし、親友を一人持つことの方が、もっと良い。

**問 3. 次の文章の英語の部分は日本語に訳し、日本語の部分は英語にしなさい。**

We cannot all do great things. しかし、わたしたちは偉大な愛を持って、小さなことはすることができる。

**問 4. 次のマイケル・ジョーダンの言葉について、1、2の問に答えなさい。**

I can accept failure, everyone fails at something. But I can't accept not trying.

1. この英文を日本語に訳しなさい。
2. Do you have anything that you can't accept? Answer in English, using about 50 – 60 words.

解答用紙

専攻	受付番号	氏名	

II

設問1.

- 1. ....  
.....
- 2. ....  
.....
- 3. ....  
.....
- 4. ....  
.....
- 5. ....  
.....

設問2.

- 1. ....  
.....
- 2. ....  
.....
- 3. ....  
.....

設問 3.

英語部分→日本語に

.....  
.....

日本語部分→英語に

.....  
.....

設問 4.

1. ....  
.....

2. ....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

(単語数 :        語)